

令和8年度 第1回 日田管内地域授業改善協議会

4月27日（月）…日田総合庁舎4階大会議室

【協議会目的】

自立した学習者の育成を目指す取組について説明・協議等を行うことにより、各学校における組織的な授業改善の推進に資する

【説明】及び【情報交換】

自立した学習者の育成を目指す取組の推進

【協議】

自立した学習者の育成を目指す授業改善を
学校全体で進めるためにはどうしたらよいか

【全体交流】及び協議会の振り返り

自立した学習者の捉え及び育成に効果的な手立てや工夫とは



☆アンケート記述より：説明及び協議を通した参加者の学びや気づき

※生成AI「Gemini」を活用して作成しています。

【視点1】教師が教える場面と児童生徒が考える場面を効果的に組み立てる単元構想

- 「教える」と「考える(学ぶ)」のバランスや子どもにゆだねる場面をイメージした授業構想を大切に、授業改善を進めていきたいと思った。
- 教師主体ではなく子どもも主体で、子どもが一生懸命思考を巡らせ、どのような課題でも自分で考えられるよう「学び方」を定着させる授業を行うことが必要であると感じた。

【視点2】子どもに「まかせる」「ゆだねる」場のある授業構想(1人1台端末活用等)

- ICTの活用…ツールとして用いる。何のために使うのか、使用の目的を明確にする。
- 子どもが「自己調整」・「自己決定」できるような時間、場面を大切にしたい。
- 「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実」を図りながら、授業や諸活動に取り入れていく。
- 「わかった」・「できた」を実感できる授業こそが、「自立した学習者」を育成する第1歩。

【視点3】「努力を要する状況」の児童生徒等、個の実態に応じた具体的な手立ての構想

- つまずき対策や支援は必要だが、自立した学習者を育てるためには「困る(困らせる)場面」が必要だと感じた。
- 子どもたちの学力・生きる力の育成のために、目指す姿を明確にして、その姿の実現に向けて「深い教材研究」による単元構想を行う必要があると感じた。

【視点4】学びの成果を実感し、次につなげる「振り返り」の実施(単元・単位時間)

- 実践の場と振り返りの場を設定し、どうしたら上手くいったか、上手くいかなかったかを考えさせ、共有していきたい。
- 取り組むと決まったことはいい加減にはせず、時折振り返りをさせたり、評価をしたりすることや、全校の前で話題にしながら共通理解を図ることが有効であると学んだ。